

# ここが問題！リニア新幹線

2019. 7. 5 No. 69 リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 web-asao.jp/hp/linear

## リニア残土利用の川崎港・東扇島埋立事業の監査請求書を提出 市民オンブズマンと東京・神奈川連絡会共同代表が連名で～6月26日

かわさき市民オンブズマンとリニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会の共同代表である天野捷一、山本太三雄、矢沢美也の3名が、6月26日、川崎港・東扇島掘込部埋立造成事業で工事業者に支払われる80億円の支出を返還ないし中止するよう市に求める監査請求書を川崎市監査事務局に提出した。

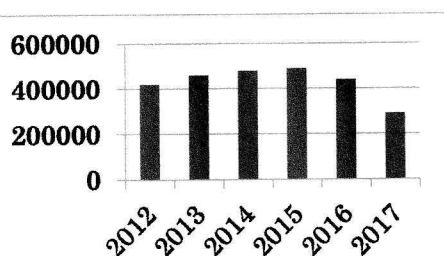


請求書は公正な審査を行うために内部監査ではなく外部委員による監査を求めている。今後、監査委員会が設置されれば、川崎市や申し立て人からの意見聴取が公開で行われることになる。

### 将来に向けて維持すべき貴重な海面をリニア残土で埋め立ててはならない

川崎市は昨年3月20日、JR東海との間で、川崎市宮前区の「リニア新幹線梶ヶ谷非常口」から搬出される140万立方メートルの大深度トンネル掘削土を東扇島の海面約13ヘクタールの埋立てに使用する協定を締結した。造成使用200億円はJR東海が支出し、造成後の維持・管理費用40億円は川崎市が負担することになった。東亜建設・あおみ・不動テトラ共同事業体が工事を受注し、昨年9月から護岸工事が行われている。

川崎港の完成自動車輸出台数（台）



川崎市は完成用自動車の輸出時に一時待機場と、川崎港の民間事業者の仮倉庫建て替え用として利用すると説明しているが、将来的に自動車輸出や倉庫の建て替え用地が不足する可能性はほとんど無い。造成が終わっても、川崎市として事業の採算性は全く期待できず、市の財政負担が増えるだけである。

また、東扇島掘込部の海面は、将来川崎市が必要とするため維持すべきものであり、今すぐ埋立てする必要が無いことも川崎市はわかっていたはずだ。（図は川崎港貿易概況から作成）

### 環境アセスもしない、事業評価も受けない埋立て計画は白紙に

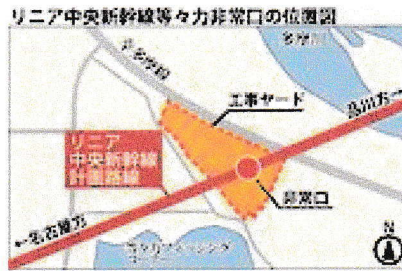
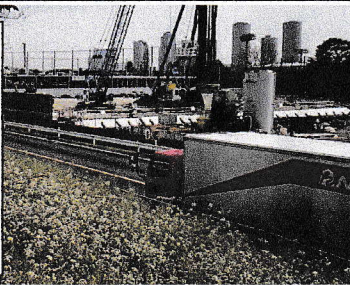
JR東海は、川崎市内のリニア工事について川崎市環境影響評価条例に基づく環境影響評価（環境アセスメント）をしていない。今回の埋立事業について、川崎市は「環境条例に基づくアセス対象の（海面）15ヘクタール以下である」として、環境アセスを逃れようとしている。2017年に行った今回の事業に関する調査結果も公表していない。

市民の声を無視し、疑問を示す市民に知らせずに大規模土木工事を行うことは認められない。私たちは埋立てによる効果も無い今回の事業を一旦白紙に戻すよう強く求める。

# 川崎・町田市内のリニア非常口工事が遅れている

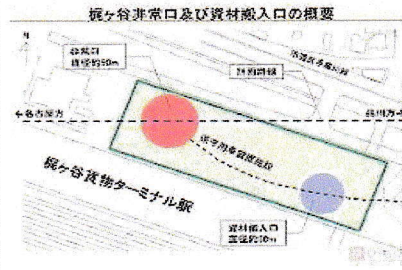
2019.6.30 リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会まとめ

川崎・等々力



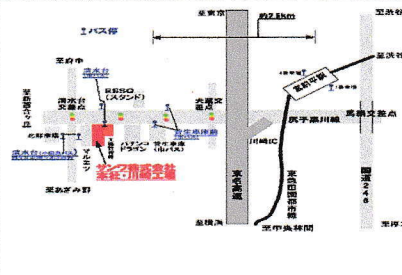
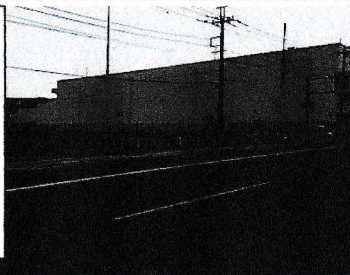
2018年秋整備工事着工完了は2023年3月予定だが清水建設・東亜建設JV  
残土は工事ヤード北側から多摩川沿線道路で246号方面へ

同・梶ヶ谷



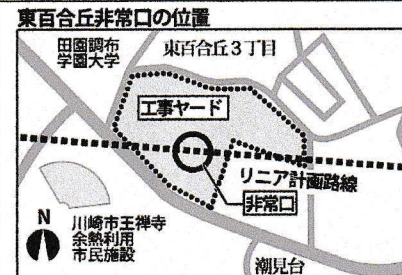
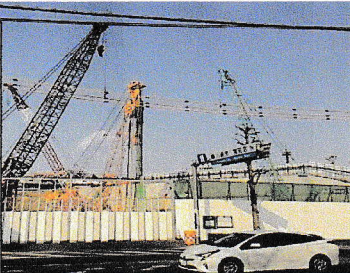
2017年3月～2020年7月。西松建設・五洋建設JV非常口(直径50m)と  
資材搬入口(同30m)建設貨物線による搬送1年遅れ日に270トン搬出の予定だが

同・犬蔵



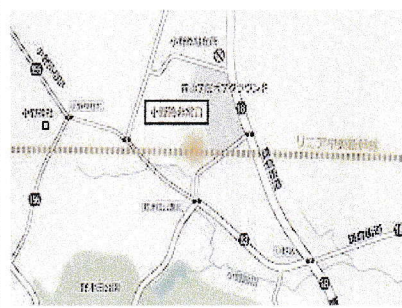
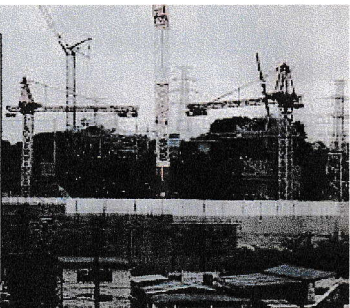
サンワ(株)工場が立ち退き本工に向け整地作業(赤印場所)土地買収に手間取り着工遅れ前田建設・三井住友建設・大日本土木JV  
金属プレス工場の土壌大丈夫か

同・東百合丘



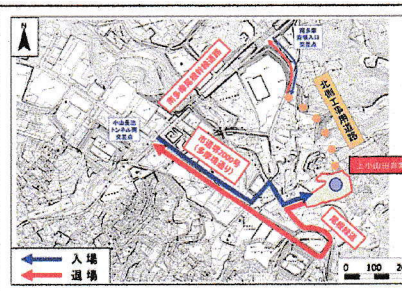
2017年3月～2020年9月、大林組・フジタJV完成は2020年9月予定  
現段階で1年の遅れ  
水道管との近接、土壌汚染問題切残土は平塚市に運ぶ

町田・小野路



2017年着工今年に入り工事中止、6月から再開、地下水問題か  
300mほど離れた「共働学舎」の井戸2本の1本が涸れた。  
JR東海も市も調査に消極的  
鹿島・オリエンタル白石・鉄建

同・上小山田



屋根緑道の拡幅工事で38本のケヤキ並木を伐採  
整地作業も始まったばかり  
原告のシイタケ農家も近くにあり、水枯れも懸念される  
戸田建設・りんかい日産JV

川崎市・麻生区の片平非常口は未着工

# トンネル工事で崩落事故を起こした岐阜県の現場を見た

岐阜県中津川市のリニア新幹線山口工区で今年4月8日、山口非常口工事の際、トンネル左上部の土砂が崩れ、地表に大きな穴が開いた。直径は6m程度で、原因は柔らかな花崗岩風化土が堆積に水を含んでトンネル内に落下したものと見られ、工事は中断されている。

7月1日にストップ・リニア訴訟事務局会議が中津川市で開かれ、会議終了議、東濃リニアを考える会の案内で山口工区の現場や残土仮置き場予定地、瀬戸トンネル工事現場を視察した。



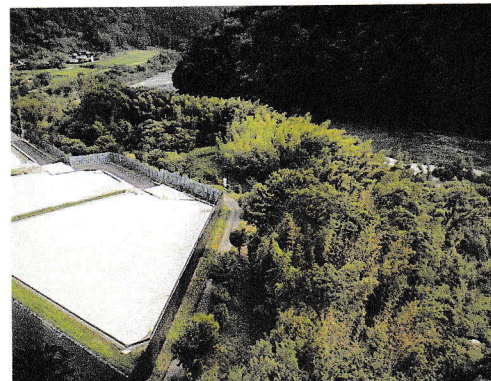
山口非常口入り口



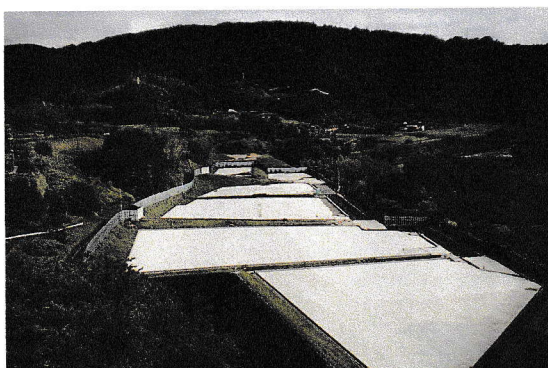
崩落現場は竹林の中



山口工区上に民家あり



山口非常口残土仮置場  
右が木曾川



残土仮置場全景、異様だ



瀬戸トンネル工事現場

## 山口工区の地盤・地質調査が不十分、現地で過去に大規模な土石流発生も

工事を発注している鉄道・運輸機構が落盤被害の発生と対策を発表したのが5月28日で、事故発生から2カ月経過していた。落盤の原因は、トンネル下部の地質が風化花崗岩と強風化花崗岩が介在しており、誤った工法で掘ったため、まず地盤を支え切れず、地中の土砂が崩落し、その後地上部の土砂が落下するに至ったと説明されている。今後ロックボルトで補強するというが、大丈夫とは思えない。

## リニア新幹線沿線住民ネットワーク発表 『各地で問題化するリニア新幹線工事の中止 を求める声明』～静岡県への圧力止めよ！

JR東海の金子慎社長は5月30日の定例記者会見で、静岡県内のリニア新幹線工事の着工が遅れていることについて、「未着工の状態が続くと(2027年の)開業時期に影響を及ぼしかねない」とし、「早く準備を整えトンネルの掘削工事の段階に進まなければならない」と述べた。これを受けて石井国土交通大臣は5月31日の記者会見で、「リニア中央新幹線は国民生活や経済活動に大きなインパクトをもたらす重要な事業である」とし、「静岡県内の工事を含む事業全体が円滑に進むよう、引き続き必要な調整や協力を行っていききたい」と述べた。

以上の報道だけを見れば、静岡県の対応がリニア新幹線の建設促進を遅らせていると受けとられかねない。しかし、JR東海がリニア新幹線事業の環境影響評価をきちんと実施せず、手続き上の必要性から工事实施計画を作成して申請を行い、これを国交大臣が認めたため着工を強行したことから、品川～名古屋間の工事各所で様々な事故やトラブルが相次ぎ、工事の中断や遅れが起きているのが現状である。

もとより、静岡県内にはリニア新幹線の中間駅は出来ず、開業による地域振興などのメリットは全くない。逆に、北部の大井川源流部で南アルプストンネルの一部が10キロ余りにわたってつぐられ、そのことで大井川水系への地下水流入が最大毎秒3トン減水するとされ、その量は下流域の62万人分の上水道水量に相当する。また、370万立方メートルもの工事残土が源流部の燕沢河岸に高さ60m、長さ700mの規模で積み置かれれば、大井川源流部の土砂崩壊や希少な生態系の喪失につながる懸念がある。このような大きな被害が予想されることから、静岡県が専門家会議を設け、JR東海に喪失される水量の全量が大井川水系に戻すよう求めているのは自治体として当然の要求である。にもかかわらず、静岡

県が専門家会議での意見をまとめた環境保全措置に関する63項目の質問や環境保全対策の提示についてJR東海は誠実な回答を示していないのが現状である。県民や自然環境に未曾有の影響を与える静岡県内のリニア工事について、JR東海が真摯な対応を怠り、開業遅れの原因が静岡県の姿勢にあるように言い立てるのは筋違いである。ましてや、国交省が静岡県内の工事推進のためにJR東海側に立って調整や協力を行うことは本末転倒であると言わざるをえない。今こそ、国交省は原点に立ち戻り、静岡県や県民の声に寄り添いJR東海のリニア工事の環境影響を真摯に受け止め、国として工事認可を取消し、工事を中止させるべきである。

いま、名古屋駅や中間駅予定地周辺では、用地買収について住民の反対の動きが広がっており、リニア供用後の騒音や振動対策の不備をめぐって訴訟も起きている。工事自体も、名古屋の名城非常口の地下水流入、岐阜県山口工区でのトンネルの崩落や地表の大規模な陥没事故が発生している。これ以上工事を強行すれば、地下水の噴出や枯渇、残土処分地探しなどの事態が起こり、工事関係者の作業環境の悪化なども懸念されるのである。

リニア新幹線の開業が経済効果や地域振興につながることは既に明らかにされている。膨大な建設費や国の3兆円もの財政支援があっても、工事の現状からみて2027年の開業は到底無理であり、結果として沿線住民や自治体や住民に財政負担をもたらすことになることが確実だ。

非常口をつくり、南アルプストンネルや都市圏の大深度トンネルを掘りはじめてしまったら取り返しがつかないことになる。私たち沿線住民は、JR東海がリニア工事を中止しリニア事業を撤回するよう強く求めるものである。自治体や住民の声を受け止めるべきである。

以上

2019年6月7日

リニア新幹線沿線住民ネットワーク

共同代表 天野捷一、川村晃生、片桐晴夫、原重雄

### ＜ストップ・リニア！訴訟東京地裁＞

7月19日(金)第15回口頭弁論

午後1時前 署名提出(約3万筆)

午後1時15分 地裁前集会

午後2時 傍聴券抽選

午後2時30分 開廷(103号法廷)

午後4時 報告集会、リニアシンポ  
(衆院第二議員会館)

ここが問題！リニア新幹線 ニュース NO.69

発行：リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会

天野捷一(中原・高津) 090-3910-8173

山本太三雄(宮前) 090-8775-1879

矢沢美也(麻生・多摩) 090-6108-6568